

第 3 回堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会の指摘事項と対応（案）

委員名	指摘箇所	指摘事項	対応
○第 4 章 現状・課題			
一瀬	現状	これまでの活用実績（参加人数や実施回数、参加者の反応等）を記載すべき。どのような活用が望まれているのか点検できるように一覧にまとめる。整備についても、計画策定後、実施した整備を記載する。	近年の主なイベント、整備事例を記載（第 4 章）
宮路	現状	整備基本計画に基づき活用を進めてきたので、できたこととできていないことを計画の方向性の図を基に整理してはどうか。	実績を計画に基づき整理（第 4 章）
中村	現状	夏休みの自由研究など既存の取組をしっかりと記載するように。レンタサイクルは全ての人が利用できないので、周遊バスの課題や経緯を記載するように。	取組事例を記載（第 4 章）
○第 7 章 活用			
北口	生涯学習	博物館やビジターセンターだけでなく、図書館など住民の身近な施設で普及啓発活動をすれば、知名度や古墳への親しみが増すのではないか。	図書館など様々な施設への情報発信や連携を図る旨を記載（第 9 章）
和田	観光振興	気球運行についても記載すべきか。他地域の古墳群との連携も目指してほしい。	気球については、上位計画に記載（第 1 章） 古墳サミット・和歌山県との連携事例を記載（第 4 章）
○第 8 章 整備			
一瀬	解説板	立体的な解説板が必要。古墳の眺望解説板を大仙公園に複数設置すると周遊につながる。紙でつくった埴輪など、可動性の高いサインはイベント時に有効。	模型などの立体的な解説板設置について記載（第 8 章）
中村	解説板	現地に来てはじめてわかるような仕掛けを。現地でのみダウンロードできる画像など。	周遊ナビアプリで対応
北口	解説板	古墳を守ってきた人や地域との関わりを紹介していくように。	解説には保存継承の取組を紹介することを記載（第 8 章）